

第三回館山市議定会例会會議録（第四号）

昭和五十七年九月二十九日（水曜日）午前十時

館山市役所議場

出席議員 二十五名

一番 神田 守隆

四番 横溝 功

七番 古賀 礼四郎

九番 松下 正己

一二番 栗原 一雄

一四番 渡辺 昭夫

一七番 黒川 平治

一九番 石井 輝久

二一番 吉田 勇治郎

二三番 菊井 敏博

二五番 五十嵐 昇

二七番 石井 正

二九番 安西 益男

欠席議員 一名

三〇番 山口 康

出席説明員

第一号に同じ

出席事務局職員

第一号に同じ

議事日程（第四号）

昭和五十七年九月二十九日午前十時開議

議案第三十九号 工事請負契約の締結について

日程第一

議案第四十号 工事請負契約の締結について

議案第四十一号 契約の変更について

議案第四十二号 千葉県市町村公平委員会共同設置規約の一部を改正する規約の制定に関する協議について

議案第四十七号 昭和五十七年度館山市一般会計補正予算（第二号）

議案第四十三号 館山市学校安全共済掛金徴収条例の一部を改正する条例の制定について

議案第四十四号 館山市農道整備事業分担金徴収条例の制定について

議案第四十五号 館山市大神宮地区排水路整備事業分担金徴収条例の制定について

議案第四十六号 市道路線の認定について

議案第四十八号 昭和五十七年度館山市水道事業特別会計補正予算（第一号）

請願第四号 たばこ・塩専売制度存続に関する請願書

陳情第一号 国鉄自動車の維持存続に関する陳情書

認定第一号 昭和五十六年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について

認定第二号 昭和五十六年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第二号 昭和五十六年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第二号 昭和五十六年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第二号 昭和五十六年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第二号 昭和五十六年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第二号 昭和五十六年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第二号 昭和五十六年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第二号 昭和五十六年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第二号 昭和五十六年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第二号 昭和五十六年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第二号 昭和五十六年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第二号 昭和五十六年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第二号 昭和五十六年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第三号 昭和五十六年度館山市と畜場特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第四号 昭和五十六年度館山市ユースホステル特別会計歳入歳出決算の認定について

日程第五 認定第五号 昭和五十六年度館山市学童災害共済事業特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第六号 昭和五十六年度館山市水道事業特別会計収支決算の認定について

認定第七号 昭和五十六年度館山市国民宿舎事業特別会計収支決算の認定について

日程第六 議員定数調査特別委員会委員長報告

日程第七 発議案第七号 館山市議会議員定数条例の一部を改正する条例の制定について

開 議 午前十時二十八分開議

○議長（林 豊君） 本日の出席議員数二十五名、これより第三回市議会定例会第四日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事はお手もとに配付の日程表により行います。

議案の上程

○議長（林 豊君） 日程第一、議案第三十九号ないし議案第四十二号及び議案第四十七号の各議案を一括して議題といたします。

総務委員会委員長報告

○議長（林 豊君） ただいま議題となりました各議案は、ともに去る九月二十日の本会議において総務委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する総務委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

総務委員会委員長横溝 功君御登壇願います。

（総務委員会委員長横溝 功君登壇）

○総務委員会委員長（横溝 功君） 去る九月二十日開会の本会議におきまして総務委員会に付託されました議案第三十九号ないし議案第四十二号及び議案第四十七号につきましては、二十一日総務委員会を開会し慎重審査の結果、全員一致原案どおり可決すべきものと決しました。

次に、審査の経過について主なる事項を申し上げます。

議案第三十九号工事請負契約の締結についてですが、まず、指名業者は何社か。落札価格に近かったものの価格は幾らか。地元業者への配慮はなされたかについて説明を求めたところ、二十社を指名したが、実際に入札に参加した業者は十九社であった。落札価格に近かったものは安藤建設株式会社で四億八千万円であった。地元業者の配慮については指名業者審査会においても地元業者を入れべく検討したが、今回の工事は館山市においては大規模工事に入るわけで、経営規模、工事経歴、施行能力また一級建築士が二名常駐しなければならないというようなことから、今回はやむを得ない措置として指名しなかったとの説明がありました。

次に、県下各市でどの程度分離発注が行われているか。現場説明から入札までの期間はどのくらいか。入札の際提出する書類は

どのようなものかを尋ねたところ、県下の各市での発注については資料がないが、この程度の工事だと基本的には分離発注していると思う。現場説明から入札までの期間は今回程度の規模によるとおおむね二週間程度。また入札時に提出する書類は入札書、誓約書、代理人の場合は委任状、さらに工事等積算内訳書を同時に提出させているとの答弁がありました。

次に、分離発注するより一括発注の方がよいと考えられるが、見直す考えはないかを質問したところ、大手業者に一括発注して安くよいものをつくるという考え方も確かにあると思うが、一方で、分離発注においては地元業者の育成が図れるということと専門工事別発注ができるという利点もあるとの考え方が示されました。

次に、入札価格と予定価格とどの程度の開きがあったかを質問したところ、若干の開きはあったが、極端な差はないとの答弁がありました。

次に、地元業者が館高や安房高を施行した経緯もあり、この程度のもは十分できると思うかどうかをただしたところ、両校とも一期、二期工事に分かれており、各期とも三億円程度であったとの答弁がありました。

次に、この工事は五十七年度、五十八年度の二年計画になっているが、五十七年度執行についての説明を求めたところ、建物四一・六％、電気関係五・五％、機械関係八・二％、全体で二八％であるとの答弁がありました。

次に、工事執行上における違約金の規定を尋ねたところ、契約事項に遅延利息、解除権の事項が入っている旨の答弁がありました。

た。

次に、議案第四十号工事請負契約締結についてですが、まず、空調設備工事の概要説明を求めたところ、冷暖房工事、換気の設備工事である旨の説明がありました。

次に、必ずしも分離発注したから中小企業が育成できるということはないと思うがどうかと質問したところ、当市はさき頃まで一括発注をしてきた。分離発注することにより中小企業者、地元業者の受注の機会を与えるべきとの国の指導もあり、議会からもそのような意見があり検討してきた。分離発注によりそれぞれの業者の専門性が生かされ、確実な仕事ができるという利点があるが、反面、複数の業者による施行のため整合性に欠けるという欠点もあると思えるが、それらを総合的に検討した結果、今回は分離発注に踏み切ったとの答弁がありました。

次に、コミュニティセンター施設の補助金の内訳について尋ねたところ、中央公民館は工事費三億八百九十九万一千円で、国庫支出金は一億三千六十三万一千円、県支出金は二千八百万円。北条地区学習等供用施設は工事費一億四千六十八万二千円、国庫支出金は七千二百五十六万三千円。保健センターは工事費一億五千三十九万一千円、国庫支出金三千七百七十五万三千円、県支出金十一万円。勤労青少年ホームは工事費一億五千六百二十七万八千円、国庫支出金三千万円、県支出金三千万円。市単独工事は三千五百四十五万八千円であり、合計では工事費七億九千九百万円、その財源内訳は国庫支出金二億六千四百九十四万七千円、県支出金六千八百一十万円。その他地方債二億九千九百一十万円、一般財源一億六千九百一十万円であるとの答弁がありました。

次に、コミュニティセンターは県の第二次五カ年計画とどのような兼ね合いを持っているかをたまたところ、県の第二次五カ年計画の中で、人口十万人以上の都市またそれ未満の中核都市に文化ホールを中心とした文化施設を六十年代までに二十八施設つくろうという構想がある。それを受けて本市でも諸施設を整備して魅力のある都市をつくろうとの考え方をしているとの答弁がありました。

次に、議案第四十七号昭和五十七年度館山市一般会計補正予算第二号についてですが、まず、館山市福祉作業所運営委託料と館山市福祉作業所排水路整備工事請負費の内訳について質問したところ、委託料については、現在入所者が十七人いる。七・五人に一人の指導員をつける基準により現在二名の指導員を置いているが、なお一名増員する必要があるためのものである。工事請負費については敷地の周りに排水路をつくるもので、延長百三・五メートルとの答弁がありました。

次に、福祉作業所の作業の内容についてたまたところ、作業は七宝焼とボールペンの組み立て。運営は社会福祉協議会に委託しているが、入所者に対し多少の賃金は支払っているようであるとの答弁がありました。

次に、清掃事務所建設工事請負費について質問したところ、管理棟これは事務室、作業員控室、更衣室、浴場、休息厚生室。車庫等を建設する。規模は管理棟約二百平米、車庫が三百五十平米程度で鉄筋コンクリート平家建て、冷暖房設備であるとの答弁がありました。

次に、自然休養村整備事業総合診断委託料と、それに関連して

その利用状況をたまたところ、まず診断についてですが、今回の診断の要点として考えているのは、管理センター周辺の観光農業開発事業、管理センターと花つみ園の関連づけ、管理センターの管理運営についてである。その利用状況については、昨年は展示室、研究室、休憩室を含め利用回数は七十八件、利用人員四千五百十六名。その他今年二月より毎月第二、第四日曜日に日曜市を実施しているとの答弁がありました。

次に、増養殖場造成改良事業補助金の内容について説明を求めたところ、築磯事業であり、八十センチ角のブロックを使用する。場所は見物、洲崎、西川名であるとの説明がありました。

さらに、このような事業は相当な時間がかかると思う。市は結論が出るまでにどのくらいの年数がかかると考えているか。また水産振興審議会においても、そのような問題は検討すべきと思うがどうかをたまたところ、こういう事業は地道な仕事を積み重ねていって、失われつつある漁業資源を少しずつでもふやしていかなければならないと考える。なお、水産振興審議会においてそういう広い見地からいろいろ検討してみたいと考えているとの答弁がありました。

次に、西岬地区学校統合による跡地の活用の見通しと通学路舗装の促進についてたまたところ、今回旧東小の鉄筋校舎を公民館として整備するための工事請負費を計上している。跡地は身近な体育館をつくりたい。旧西小の跡地には集会所、花卉の集荷所を計画している。できるだけ来年度処置できるよう準備を進めている。なお、今回通学用道路の排水路整備と待避所設置の予算をお願いした。舗装については地が固まったら舗装すること

で来年度予算でお願いしたいと考えているとの答弁がありました。
以上、本委員会に付託されました議案五件について総務委員会における審査の概要を申し上げ、満場の御賛同を賜りますようお願い申し上げます。

○議長（林 豊君） 以上で、委員長報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

よって、質疑を終結いたします。

討 論

○議長（林 豊君） これより討論に入ります。

通告がありますので発言を許します。

一番議員神田守隆君御登壇願います。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 議案の第四十七号昭和五十七年度館山市一般会計補正予算第二号について反対の討論をいたします。

歳入歳出それぞれ二億四千九百一十一万四千円を追加しようとする補正であります。市長の政治姿勢にかかわる問題点を指摘し反対討論といたします。

まず第一点は、北方領土返還要求運動千葉県民会議負担金に関するものであります。この会は県、市町村、民間団体などで構成し、県民大会を開催したり、北方領土に関する啓蒙運動を行うとされています。しかし、この運動には基本的な問題点が含まれています。それは千島放棄をうたったサンフランシスコ条約について言及していないことであります。自民党政府は、せんだってサン

フランシスコ条約締結の時期の公文書公表にあたって、千島問題に関する公文書の発表を削除するなど真相隠しにやっきとなっています。こうした自民党政府の姿勢を厳しく糾弾するものであります。千島は本来日本の領土であり、千島放棄条項を廃棄し、千島の返還を求めるべきことを強く主張いたします。

第二点は、東京湾横断道路促進千葉県民会議負担金についてのものであります。建設省の第九次道路整備五カ年計画案に東京湾横断道路に関する計画が盛り込まれました。

いま、大事なことは、東京湾横断道路の及ぼす影響は何なのか、そのメリットと同時にデメリットは何なのか、その判断の材料となる資料を豊富に市民に提供することにあります。アメリカのサンフランシスコ湾にかかる橋も、その決定は地域住民の投票によって決められています。そうした慎重さは当然のことでありまして、促進を前提とした運動はメリットだけが一面的に強調され、デメリットが語られずということになります。

促進を前提とした県民会議には民間団体がそれぞれの立場から参加するのは自由であります。住民に対し公正な立場から情報を提供する責任がある県や市町村が参加するのは大変な問題があると考えます。

以上、二点を指摘し、反対討論といたします。

○議長（林 豊君） 以上で、一番議員君の討論を終わります。

以上で、通告者による討論を終わります。

通告をしない議員で討論はありませんか。——討論なしと認めます。

以上で、討論を終結いたします。

採 決

○議長（林 豊君） これより採決いたします。採決は分割して行います。

まず、議案第三十九号ないし議案第四十二号について一括採決いたします。

各議案についての委員長の報告は原案可決であります。各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって、議案第三十九号ないし議案第四十二号の各議案はいずれも原案どおり可決されました。

次いで、議案第四十七号について起立により採決いたします。

議案第四十七号についての委員長の報告は原案可決であります。本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（林 豊君） 起立多数であります。よって、議案第四十七号昭和五十七年度館山市一般会計補正予算は原案どおり可決されました。

議 案 の 上 程

○議長（林 豊君） 日程第二、議案第四十三号館山市学校安全共済掛金徴収条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

文教民生委員会委員長報告

○議長（林 豊君） ただいま議題となりました議案第四十三号は去る九月二十日の本会議において文教民生委員会に付託されたものであります。

よって、これより議案第四十三号に対する文教民生委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

文教民生委員会委員長黒川平治君御登壇願います。

（文教民生委員会委員長黒川平治君登壇）

○文教民生委員会委員長（黒川平治君） 去る九月二十日開会の本会議におきまして文教民生委員会に付託されました議案第四十三号館山市学校安全共済掛金徴収条例の一部を改正する条例の制定について、二十一日委員会を招集し慎重審査の結果、全員一致をもって原案どおり可決すべきものと決しました。

次に、審査の内容の主なる事項について申し上げます。

本条例の改正理由について説明を求めましたところ、日本学校健康会法が新たに公布され、日本学校安全会法が廃止されたことに伴い条文の整理を行うもので、内容については従前と同様であるとの説明がありました。

次に、災害共済給付の内容及び加入状況について説明を求めましたところ、学校管理下における負傷、疾病、廃疾、死亡について医療費等を支給するものであり、加入状況については本市においては全員加入しておるとの説明がありました。

また、学校管理下の定義について説明を求めましたところ、法令の規定により学校が編成した教育課程に基づく授業を受けてい

るとき。学校の教育計画に基づく課外指導。休憩時間中学校にあるとき。校長の指示、承認に基づいて学校にあるとき。通常の経路、方法により通学するときに学校管理下として規定されているとの説明がありました。

なお、本市では学校管理下外で、交通事故を除く災害に対し、学童災害共済制度を実施しているとの説明がありました。

以上、本委員会における審査の概要を御報告申し上げましたが、満場の御賛同をいただきますようお願いいたしましたして、文教民生委員会委員長報告いたします。

○議長（林 豊君） 以上で、委員長の報告を終わります。

委員長報告に対する質疑

○議長（林 豊君） ただいまの委員長報告について御質疑はありますか。

○一九番（石井輝久君） 若干御質問申し上げます。

この文教民生委員会に付託されました案件は、要するに現行の二つの法律があって、これを一つの法律にまとめて今後学校給食の運営にあたらうとする案のように承っておりますが、そこでお伺いしたいのは、二つの法律を一つにして今後運営をしていく。

当局の御説明によりますと、これは経費の節減等のメリットがあると承っておりますけれども、館山の学校給食組合議会がございまして、学校給食を行っておりますが、これを可決いたしますと、館山市の学校給食でどういうメリットが生ずるのか、まず御質問申し上げます。（「おかしいぞ、委員長にだろ」と呼ぶ者あり）そこで、文教民生委員会に付託されましたこの案

件がどのような、ただいま質問しましたようなことにつきましてどのような御質疑が行われたか。

○文教民生委員会委員長（黒川平治君） ただいま御報告をしたとおりであります。その他のことは審議しません。

（「了解、了解」と呼ぶ者あり）

○一九番（石井輝久君） そうすると、この案件を可決した場合に当館山の学校給食を実施するにあたって実際メリットがあるかどうか審議がなかった、このような理解でよろしゅうございますか。○文教民生委員会委員長（黒川平治君） 経営の面においては従前どおり、変わりがないとの説明がございました。ただいま御報告したとおりでございます。

○一九番（石井輝久君） 質問を終わります。

○議長（林 豊君） 他に御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。

よって、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

通告はありませんでした。討論はありませんか。——討論なしと認めます。

よって、討論を終結いたします。

採 決

○議長（林 豊君） これより採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。本案を委員長長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって、議案第四十三号館山市学校安全共済掛金徴収条例の一部を改正する条例の制定については原案どおり可決されました。

議案の上程

○議長（林 豊君） 日程第三、議案第四十四号ないし議案第四十六号及び議案第四十八号の各議案を一括して議題といたします。

建設経済委員会委員長報告

○議長（林 豊君） ただいま議題となりました各議案は、去る九月二十日の本会議において建設経済委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する建設経済委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

建設経済委員会委員長菊井敏博君登壇願います。

（建設経済委員会委員長菊井敏博君登壇）

○建設経済委員会委員長（菊井敏博君） 去る九月二十日の本会議において建設経済委員会に付託されました議案第四十四号館山市農道整備事業分担金徴収条例の制定について、議案第四十五号館山市大神宮地区排水路整備事業分担金徴収条例の制定について、議案第四十六号市道路線の認定について、議案第四十八号昭和五十七年度館山市水道事業特別会計補正予算第一号について、二十日建設経済委員会を招集して議案の慎重なる審査を行いました。結果は全員一致原案どおり可決すべきものと決しました。

次に、審査の経過につきまして主なる事項を申し上げ御報告と

いたします。

議案第四十四号につきましては、条例にある特に利益を受けるものは何人か。利益の限度額はどのように考えているか。不服の申し立てがあった場合や、また滞納した場合の罰則規定はないのか。どのようにこれに対応するのかとの質問に対して、特に利益を受けるものについては、本年度四本を舗装する予定で、その道路に沿った両側の農地を所有している人を考えている。現在地元と折衝して調査中である。

受益の限度額につきましては、農道を舗装することによって利益を受ける限度内というふうに考える。

三の不服の申し立てがあった場合等については、本事業を進めるにあたってこれからなお地元と協議を進めるが、組合等を結成して事業を行うので、そのようなことは全く予測されない。もしそのような事態になれば地方自治法の規定により処置する旨答弁がありました。

議案第四十六号につきましては、前から要望の出ていた道路とありますが、現在までの経緯について。用地買収にあたり地権者は何名か。さらにはまたその実現は可能と考えるか。橋梁の架設を県が行うのか。現在、市道は総計何路線あるか、その中で号線使用の数字と、地名使用の路線の分類について等々の質問に対して、当局の答弁は、この道路については以前老人クラブの保田氏から県議会に請願がなされていたもので、県が事業主体となり河川管理道路三メートルと、二メートル用地を買収して五メートル道路をつくるにあたって、今回市道として認定しようとするものである。用地買収については地権者は子安神社ほか八名であり、実現

可能ということで今回認定をお願いしている。

橋梁架設については正式なる協議ではないが、現在までの話し合いの中では、橋については市が施行し、それについて県費補助がつくということである。

現在の市道については総計八百五十九路線、号数使用は六百三路線、地名使用は二百五十六路線である旨の答弁を受けました。

議案第四十八号につきましては、水道施設工事請負費追加補正するにあたって、その経緯についてとの問いに対しては、運動公園五十ミリ管二百七十五メートル、楠見の市道百五十三号線に七十五ミリ管五百十四メートル、八幡の旧市営住宅付近に七十五ミリ管二百十六メートル実施の予定である。運動公園については県よりの要請もあり負担金により行い、楠見、八幡地区においてはかねてより住民の要望があり、財政的にも見通しがついたので実施することにした。希望戸数は楠見において三十四戸、八幡において二十六戸である旨の答弁を受けました。

以上、建設経済委員会に付託されました諸議案について本委員会の審査の概要を申し上げました。なにとぞ満場の御賛同を賜りますようお願い申し上げます。建設経済委員会委員長報告といたします。

○議長(林 豊君) 以上で、委員長の報告を終わります。ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。

よって、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

通告はありませんでした。討論はありませんか。——討論なしと認めます。

よって、討論を終結いたします。

採 決

○議長(林 豊君) これより採決いたします。採決は一括して行います。

議案第四十四号ないし議案第四十六号及び議案第四十八号についての委員長の報告は原案可決であります。各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(林 豊君) 御異議なしと認めます。よって、議案第四十四号ないし議案第四十六号及び議案第四十八号の各議案はいずれも原案どおり可決されました。

請願書・陳情書の上程

○議長(林 豊君) 日程第四、請願第四号たばこ・塩専売制度存続に関する請願書及び陳情第一号国鉄自動車の維持存続に関する陳情書を議題といたします。

総務委員会委員長報告

○議長(林 豊君) ただいま議題となりました請願書及び陳情書はともに去る九月二十日の本会議において総務委員会に付託されたものであります。

よって、これより本請願書及び陳情書に対する総務委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

総務委員会委員長横溝 功君御登壇願います。

(総務委員会委員長横溝 功君登壇)

○総務委員会委員長(横溝 功君) 去る二十日開会の本会議におきまして総務委員会に付託されました請願第四号及び陳情第一号につきましては、二十一日総務委員会を開会し慎重審査いたしました。その経過について申し上げます。

まず、請願第四号は、塩専売制度存続に関する請願書についてですが、経営の現状はスムーズにいったいということからこれは現状維持の請願であるので採択してはいかがかと思う。また特にたばこ消費税は徴収費不要の市の重要な財源というようにこともあり、現状のままで存続することが市のためにもいいんじゃないかと考えているとの意見がありまして、以上のことから、本請願については採択すべきものと決しました。

次に、陳情第一号国鉄自動車の維持存続に関する陳情書につきましては、国鉄そのものの経営については根本的にメスを入れなければならぬ事態も思うが、現時点においては当市においては地域の通学、経済活動等において欠かすことのできない存在となっている。国家的判断は別として、地域としては国鉄職員の方々が安心して働ける職場の確保という観点から、陳情書の趣旨に賛成するとの意見がありました。以上のことから、本陳情書については採択すべきものと決しました。

なにとぞ、満場の御賛同を賜りますようお願いいたします、総務委員会委員長報告といたします。

○議長(林 豊君) 以上で、委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑はありませんか。——御質疑なしと認めます。

よって、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

討論はありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

○議長(林 豊君) これより採決いたします。

まず、請願第四号について採決いたします。

請願第四号についての委員長の報告は採択であります。請願第四号を委員長の報告どおり採択と決しますことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(林 豊君) 御異議なしと認めます。

よって、請願第四号は採択すべきものと決しました。

次いで、陳情第一号について採決いたします。

陳情第一号についての委員長の報告は採択であります。陳情第一号を委員長の報告どおり採択と決しますことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(林 豊君) 御異議なしと認めます。

よって、陳情第一号は採択すべきものと決しました。

日 程 の 追 加

○議長(林 豊君) お諮りをいたします。

ただいま採択と決定されました請願第四号に付帯して発議案第

五号たばこ専売制度及び塩専売制度の存続に関する意見書についてが提出されました。

この際、本発議案を日程に追加し、議題といたしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(林 豊君) 御異議なしと認めます。

よって、本案を日程に追加し、議題とすることに決しました。

議案の上程

○議長(林 豊君) 発議案第五号たばこ専売制度及び塩専売制度の存続に関する意見書についてを議題といたします。

議案を配付いたさせます。

(議案配付)

○議長(林 豊君) 配付漏れはありませんか。——配付漏れなしと認めます。

議案の朗読を願います。

(書記朗読)

○議長(林 豊君) 朗読は終わりました。

議案の内容説明

○議長(林 豊君) 議案の説明を求めます。

(四番議員横溝 功君登壇)

○四番(横溝 功君) 発議案第五号たばこ専売制度及び塩専売制度の存続に関する意見書について提案理由を御説明申し上げます。本案は、ただいま採択されました請願書の趣旨を体しまして提

出したたものでありますが、たばこ・塩専売事業の民営化等が実施されれば、業界の混乱のみならず地方財政や国民生活にも多大の影響が憂慮されます。

かかる見地から、この際、本市議会といたしましても、現行専売制度の存続を関係機関に要望いたしたく本案を提出いたしましたのでございます。

満場の御賛同を賜りますようお願い申し上げまして、提案理由の説明といたします。

○議長(林 豊君) 説明は終わりました。

御質疑を願います。——御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長(林 豊君) お諮りいたします。

本案については委員会の付託並びに討論省略採決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(林 豊君) 御異議なしと認めます。

採決

○議長(林 豊君) これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(林 豊君) 御異議なしと認めます。

よって、本案は原案どおり可決されました。

日程の追加

○議長（林 豊君） お諮りいたします。

ただいま採択と決定されました陳情第一号に付帯して発議案第六号国鉄自動車の維持存続に関する意見書についてが提出されました。

この際、本発議案を日程に追加し、議題といたしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。

よって、本案を日程に追加し、議題とすることに決しました。

議案の上程

○議長（林 豊君） 発議案第六号国鉄自動車の維持存続に関する意見書についてを議題といたします。

議案を配付いたさせます。

（議案配付）

○議長（林 豊君） 配付漏れはありませんか。——配付漏れなしと認めます。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

○議長（林 豊君） 議案の朗読は終わりました。

議案の内容説明

○議長（林 豊君） 議案の説明を求めます。

（四番議員横溝 功君登壇）

○四番（横溝 功君） 発議案第六号国鉄自動車の維持存続に関する

意見書について提案理由を御説明申し上げます。

本案は、ただいま採択されました陳情書の趣旨を体しまして提出したものであります。

御承知のとおり、本市議会はさきに地方陸上公共交通確保に関する意見書を関係機関に提出し、地域における公共交通の整備を

要望したところでありますが、本市におきましては、国鉄バスは

市民の日常生活に不可欠のものであり、運行地域であります西岬

神戸、富崎、豊房では唯一の公共交通手段であります。

このような本市の状況から、現在の国鉄バスの維持存続を要望

いたしたく、お手もとに配付のとおり六名の賛成者を得まして本

案を提出いたしました次第でございます。

満場の御賛同を賜りますようお願いいたしまして、提案理由の

説明といたします。

○議長（林 豊君） 説明は終わりました。

御質疑願います。——御質疑なしと認めます。

○議長（林 豊君） 説明は終わりました。

委員会付託の省略

○議長（林 豊君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託並びに討論省略直ちに採決するとに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。

採決

○議長（林 豊君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(林 豊君) 御異議なしと認めます。

よって、本案は原案どおり可決されました。

議案の上程

○議長(林 豊君) 日程第五、認定第一号ないし第七号昭和五十六年度一般会計並びに各特別会計決算を一括して議題といたします。

決算審査特別委員会委員長報告

○議長(林 豊君) ただいま議題となりました各会計決算は、ともに去る九月二十日の本会議において特別委員会を設置し付託されたものであります。

よって、これより本決算に対し決算審査特別委員会における審査の経過並びに結果につき委員長長の報告を求めます。

決算審査特別委員長藤田益治君御登壇願います。

(決算審査特別委員会委員長藤田益治君登壇)

○決算審査特別委員長(藤田益治君) 認定第一号ないし第七号昭和五十六年度館山市一般会計及び特別会計決算に係る決算審査特別委員会における審査の経過及び結果について御報告申し上げます。

去る二十日の本会議におきまして本委員会に付託されました各決算につき、二十四日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。申し上げるまでもなく、本決算につきましてはすでに監査委員

による監査の結果、予算執行は議会の議決事項に従って、その目的に沿っておおむね適正に執行されたとの決算審査意見書が付されておるところであります。本委員会としてはさらに議会の立場から付託の趣旨を体し、審査を行いました。

以下、委員会におきます質疑応答等整理いたしまして、その主なる事項について御報告申し上げます。

まず、一般会計歳出議会費中、議会図書室が設置され、図書購入費が支出されているが、今後なお一層図書室の整備、充実を図られるよう要望いたしました。

次に、総務費中、補助金等の見直しが議論されているが、市職員互助会補助金の内容について及び見直しの必要はないか。さらに国において人事院勧告凍結の方針が打ち出されたことについて市はいかに対応するのか説明を求めましたところ、市職員互助会補助金については給料の百分の一を職員が拠出し、市も同額補助しているもので、退職生業資金、各種祝、見舞金、福利厚生事業に充てているものであるが、いろいろな発足の経過もあり、検討課題として組合との交渉の中で考えていきたい。また、人事院勧告については、従来から人事院勧告特に県の人事委員会勧告を尊重してきた。今回の凍結措置は異常事態であり、今後県の人事委員会勧告がどうなるか、それにより市の態度を決めたいとの見解が示されました。

次に、庁用器具等の購入方法について説明を求めましたところ、同一時期の同一種類のものについてはできるだけ一括購入しているし、財務規則の定めにより二十万円以上のものについては見積もり合わせを行い、最低価格者から購入している。本年度五十九

件、六千百余万円の購入をしたとの説明がありました。

次に、企画費中、総合計画審議会については、さきの公共施設等調査特別委員会においてもその活用について指摘があったが、委員報酬が例年計上され未執行に終わっているが、予算計上にあたって検討の必要はないかたどしましたところ、来年度予算編成にあたって慎重に検討する旨の答弁がありました。

なお、各種審議会等については時代に対応して常にその必要性について見直しを行うよう要望いたしました。

次に、コミ・ニティ施設建設関連経費が支出されているが、複合施設とした基本的な考え方について、また文化会館に対するさきの特別委員会の指摘についてどう受けとめているか伺いましたところ、コミ・ニティづくりを市の行政の基本と考えており、特に安房郡市の中核都市であるとの認識から、長期的展望に立って大きな人の集まる施設が必要と考えてきた。文化会館について時期尚早であるとの議会の指摘については尊重したい。なお、近い将来に建てる必要があると認識している旨の説明がありました。

次に、民生費中、結婚相談業務について社会福祉協議会に委託して実施しているが、事業の状況について説明を求めましたところ、登録人員三十九名、相談件数三十六人、成立が三組であったとの説明がありました。

次に、老人福祉センターの利用増大に対する方策について、及び民間委託の考え方についてたどしましたところ、近隣町村にも同じような施設ができたので、利用者数は漸減の傾向にあるが、当面冷房施設、身障者用トイレ等の設置について検討している。

なお、民間委託については老人福祉センターのみを考えているのではなく、委託できるものはすべて委託すべきものと基本的には考えており、委託した方がメリットが多いということであれば委託を考えるとの答弁がありました。

次に、保育所費に対する超過負担について説明を求めましたところ、保育所費における財源内訳については国の負担金六千五百十六万余円、県負担金八百四十四万余円、市の義務的負担八百四十四万余円、保育料徴収額四千七百七十二万余円、その他補助金等四百五十二万余円、市の超過負担八千五百六十八万余円であるとの説明がありました。

次に、衛生費環境衛生費中、河川水波菌のための医薬材料費が支出されているが、成果について十分調査されているか伺いましたところ、本事業は汐入川、どんどん川、楠見川において海水浴場の大腸菌対策として実施しているもので、河川から海に入る前に大腸菌群を減らし、遊泳適を保っているとの説明がありました。

次に、じんかいの排出量が年々増大しているが、ごみの減量化に対してどのように考えているか。また、じんかい収集事業の委託について検討しているか伺いましたところ、処理経費の上からごみの減量化に取り組まなければならないと考えており、広報等を通じて住民一人一人に協力を求めることが必要である。不燃物については再利用の観点から分別収集を実施したことにより埋め立て量の減少をみている。委託についてはトン当たり収集経費が委託の方が半分になるとの指摘データもあるが、館山市はトン当たり七千円台であり、県北では一万四千円ぐらいと聞いている、収集経費を考えながら委託についても検討しなければならぬと

の答弁がありました。

次に、労働費中、勤労者団体補助金の具体的な内容について伺いましたところ、勤労者の文化福祉事業に対する助成として地区労に支出したもので、文化、学習、体育、スポーツ大会等実施しているとの説明がありました。

次に、農林水産業費中、農政審議会の報酬に不用額を生じているが、衰退する農業の現状にかんがみ、審議会を十分活用し、市の指導性を発揮されるよう要望いたしました。

次に、水産業費中、主な施策の成果に関する報告の中で魚場開発と小型漁船の航行及び操業の安全を図ったとあるが、具体的にいかなる事業を実施したか説明を求めましたところ、小型漁船に対するリーダーの設置及び魚群探知機並びにロランロを設置したとの説明がありました。

次に、商工費中、大型店対策事業補助金が支出されているが、どのように使われたか、また、その効果について伺いましたところ、大型店出店問題については商調協で現在審議中であり、補助金は商工会議所に七十万円、商店会連合会に三十万円を交付したが、補助目的は商調協開催によるもの、商店街の活性化、商業近代化のための検討、研修に関するものであるとの説明がありました。

次に、観光費中、観光振興基本計画策定事業が実施されているが、どのような提言を受けたかとの質問に対し、本年度を初年度として基本計画を策定し、四年間で事業実施を図ろうとするものであるが、内容については館山市における観光の状況分析を行い、将来との結びつきの中でスポーツの里づくり、四季を通

じて利用できる施設を導入し、観光発展を図ることが望ましいとの提言を得たとの説明がありました。

次に、土木費中、国道百二十七号バイパスの進捗状況について説明を求めましたところ、国道百二十七号は木更津から館山までが路線であるが、今年度予定としては木更津から君津延長三・五キロの測量、君津市内において二車線から四車線の拡幅舗装。君津天羽バイパス延長十七・四キロについては用地買収が進められている。鋸南バイパス延長六・九キロでは路線決定の調査。館山バイパス七・二キロでは富浦区域において測量についての全住民の了解を得たとのことであり、館山区域の五・二キロについては那古地区は一筆測量を行う。正木地区については詳細設計、一筆測量を行う。用地買収については川名岡から富浦境まで、那古正木地区の一部について進める計画であるとの説明がありました。

次に、市では公園を設置し管理しているが、公園の種類について説明を求めましたところ、都市基幹公園として総合公園、運動公園があり、住区基幹公園として児童公園、近隣公園、地区公園等があるとの説明がありました。

なお、船形の丸山公園については市の公園として設置できないかただしたところ、面積が狭いこと、位置的に子供にとって安全な場所とは言えないこと等から検討が必要である旨の答弁がありました。

次に、消防費中、年末警戒激励金について説明を求めましたところ、激励金については五十四年度から各部に対して一万円、本部に対して一万円交付しているとの説明がありました。

次に、消防団室の設置について要望しましたところ、現在の庁

舎の状況から、団室をつくる余裕はないとの説明がありました。

次に、教育費中、小中学校、幼稚園の生徒、園児一人当たりの費用額について説明を求めましたところ、建設費を除き、小学生一人当たり四万七千六百十九円、中学生一人当たり六万五千五百六十八円、幼稚園児一人当たり十五万九千九百九十二円であるとの説明がありました。

次に、図書館費中、図書館の利用状況、あわせて施設拡充の必要はないか説明を求めましたところ、利用人員については五十五年度一万八千人、五十六年度二万一千人とふえてきている。施設については現在約三万四千冊の蔵書があり、蔵書室についてはスペースがまだあるが、閲覧室については増築を検討しなければならぬという将来展望を持っているとの説明がありました。

次に、災害復旧費中、館山棧橋の復旧がなされ、市民の憩いの場として、また観光の面で利用されているが、今後客船の発着等で利用する考えはないか質問しましたところ、棧橋については市民の要望により原状に復したが、現在以上の利用について考えていない旨の答弁がありました。

次に、歳入中、市税については経済事情等を反映して収入未済額がふえているが、徴税に対する基本的な考えについてただしましたところ、自主納税に対する理解を求めるとともに、滞納の個々の実態を把握して対策を立てること、不良債権の整理、徴税吏員の資質の向上、市独自でなく県全体の連帯の中で対処すること等を基本として考えているとの答弁がありました。

特に、土地保有税については強制執行も実施すべきではないかとの意見に対しまして、土地保有税滞納繰越分については大半は

差し押え処分されているが、抵当権等により公売の実施は困難な状況にあり、各市とも苦慮している。今後も各市と情報交換しながら積極的に対処するとの答弁がありました。

次に、住宅使用料の未納者に対して退去処分等行ったことがあるか伺いましたところ、三年ごとに所得の調査を行い、明け渡し対象者については法的な文書による告知をし、督促を行っている。現在未納者一名に対し裁判所に法的手続をとっているとの説明がありました。

次に、国民健康保険特別会計について、国保税の収納状況が悪いが、未納者に対して診療を受けられないよう措置した市があると聞くが、どのように考えるか伺いましたところ、診療を拒否することについては考えていないとの答弁がありました。

次に、学童災害共済事業について、給付状況の説明を求めましたところ、骨折十六件、捻挫十三件、打撲十三件、脱きゅう四件、創傷三件、計四十九件で、団体活動下における事故よりも家庭における災害が多いとの説明がありました。

以上、本委員会におきます審査の概要を御報告申し上げましたが、本決算書を総体的にみると、おおむね議会議決の趣旨に沿って執行されたものと認め、本委員会は付託を受けました認定第一号ないし第七号昭和五十六年度一般会計並びに特別会計決算は全員一致をもっていずれも認定すべきものと決しました。

以上、決算審査特別委員会におきます審査の経過並びに結果につきまして御報告申し上げまして委員長報告を終わります。

○議長（林 豊君） 以上で、委員長の報告を終わります。

委員長報告に対する質疑

○議長（林 豊君） ただいまの委員長報告について御質疑はございませんか。

○一番（神田守隆君） いまの委員長の報告の中で、人事院勧告の凍結問題について、市の方ではこれまで県の人事委員会を尊重してきたが、非常事態であり、今後検討したいというような答弁があったと、こういうことでありますが、いまだその内容について詳しく御説明を求めたいと思うわけであります。

人事委員会の勧告これは大変重要な問題であります。それで、市の態度がこれまで人事院勧告を尊重するという態度をとってきた。この態度が変更になったと、そういうような理解を決算委員会ではされたのかどうか、そういうふうなものなのかどうかという点についてどういうふうに受けとめておるかということをお尋ねしたいと思います。

○決算審査特別委員長（藤田益治君） ただいま報告したとおりの趣旨について御審議なさったわけでございます。

○一番（神田守隆君） この問題は、決算委員長との話でどうこうという問題でもないわけでありますから、一応ここで質疑を打ち切ります。

○議長（林 豊君） 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

以上で、質疑を終結いたします。

討 論

○議長（林 豊君） これより討論に入ります。
通告がありますので発言を許します。

一番議員神田守隆君御登壇願います。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 認定第一号昭和五十六年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について、及び認定第二号昭和五十六年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について反対の討論をいたします。

昨年の消費者物価指数は勤労者の賃金の上昇を上回り、実質賃金は低下するなど市民生活をめぐる困難は増大いたしました。こうした中で、決算の認定にあたっては、昭和五十六年度の館山市政が市民生活を守るものであったかが問われなければならぬと考えます。残念ながら五十六年度決算は軍備拡張のために福祉、教育を切り捨て、大増税、公共料金値上げの政策をとっている自民党政権に追隨したのとなっており、その認定に賛成することはできません。こうした立場から、次の諸点を特に主張し反対討論いたします。

第一点、市道舗装や消防関係などの地元寄付金は直ちに全廃し全額公費にすること。地方財政法は住民への割当的寄付金を厳しく禁止しています。市は任意寄付金としていますが、実態は多くのが割当寄付金であります。市は地域コミュニティなどと言っていますが、寄付金の負担のあり方をめぐって地域では住民同士が対立し合うこともまれではありません。市の責任は重大だと言わなければなりません。

第二点、幼稚園の入園料を廃止することであります。市長は基準財政収入額の算定上、幼稚園では入園料が徴収されているからと、これを論拠として入園料の徴収をしましたが、これは地方交

付税の算出基準に住民の負担を直結、連動させるものであります。市長は市民の福祉を最優先させるべきで、住民負担のあり方を国の基準財政収入額の算定基準に連動させるなどという考え方は、地方自治の本旨からは絶対に認められるものではありません。

第三点、課税最低限の引き上げ処置がきちんとされないために市民税が一七%もの大幅増税となっています。これは本格的な軍備増強を進めるために、国民には大増税と負担増を迫る自民党の政治を反映したものであります。地方の時代はいま言葉だけのものとされようとしています。地方の自治と市民生活を守るためには、この自民党政治に追隨することをやめ、真に市民の生活を守る立場に徹するよう主張いたします。

第四点、去る九月二十四日に政府は人事院勧告の凍結を決定いたしました。市はこれまで人事委員会の勧告を尊重するという態度をとってまいりましたが、こうした中で人事院勧告を守ることには大変に重要な問題であると考えます。市には約一万人の給与所得に基づく生活者がおりますが、人事院勧告の凍結による直接的な影響は約三千八百人にも及ぶと考えられます。さらに厚生年金あるいは国民年金等の物価スライド制が廃止されれば、さらに一万人に近い方々が影響を受けると考えられます。こうした中で政府の人事院勧告凍結問題は重大な問題であり、市はこれに抗議し、県人事委員会の勧告を尊重するという従来からの態度を堅持するよう強く求めます。

第五点、先ほどの決算委員会の中のありました保育園の超過負担は八千五百八十四万余円、これは国が地方自治体に対する責任をないがしろにし、その財政責任を地方自治体にすりかえ

てきたことであると考えます。国に対しその責任を明らかにし、こうした超過負担の解消を強く働きかけるべきであると考えます。以上の諸点を主張いたしまして、認定第一号に対する反対の討論といたします。

次に、認定第二号についてであります。国民健康保険税は対前年度比一四%と上っていますが、市民の負担はもはや限度を超えています。不納欠損額や収入未済額対前年度比大幅にふえていることは、こうしたことを事実で証明しています。国民健康保険事業の事務費は国が負担すべきであります。国民健康保険事業の事務費は国が負担すべきであります。これは本来国保の加入者が負担する必要のない経費であります。国は事務費負担金を正當に負担すべきであります。また当面、市は一般会計から繰り入れをして加入者の負担の軽減を図るよう強く主張いたします。

以上、主張いたしましたして反対討論といたします。

○議長(林 豊君) 以上で、一番議員君の討論を終わります。

以上で、通告者による討論を終わります。

通告をしない議員で討論はありませんか。——討論なしと認めます。

以上で、討論を終結いたします。

採 決

○議長(林 豊君) これより採決いたします。採決にあたりましては分割して採決いたします。

まず、認定第一号一般会計決算について起立により採決いたします。

認定第一号についての委員長の報告は認定すべきであるとするものであります。委員長は報告どおり認定することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長(林 豊君) 起立多数であります。

よって、認定第一号一般会計決算は認定することに決しました。次いで、認定第二号国民健康保険特別会計決算について起立により採決いたします。

認定第二号についての委員長の報告は認定すべきであるとするものであります。委員長の報告どおり認定することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長(林 豊君) 起立多数であります。

よって、認定第二号国民健康保険特別会計決算は認定することにした。

次いで、認定第三号ないし認定第七号の各特別会計決算について一括して採決いたします。

認定第三号ないし認定第七号についての委員長の報告は認定すべきであるとするものであります。委員長の報告どおり認定することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(林 豊君) 御異議なしと認めます。

よって、認定第三号ないし認定第七号の各特別会計決算はいずれも認定することに決しました。

○議長(林 豊君) 午前の会議はこれにて休憩とし、午後一時再

開いたします。

午前十一時五十二分 休 憩

午後 一時 六分 再 開

○議長(林 豊君) 午後の出席議員数二十五名、休憩前に引き続き会議を開きます。

議員定数調査特別委員会委員長報告

○議長(林 豊君) 日程第六、議員定数調査特別委員会委員長の報告を議題といたします。

本特別委員会は、去る第二回市議会定例会において低成長下、社会情勢の変化の中において、市議会も議会の立場から議員定数について検討する必要上設置されたものであります。

よって、これより議員定数調査特別委員会における調査検討の経過及び結果につき委員長の報告を求めます。

議員定数調査特別委員会委員長 流山源次郎君御登壇願います。

(議員定数調査特別委員会委員長 流山源次郎君) 去る第二回市議会定例会において設置されました議員定数調査特別委員会における調査検討の経過及び結果につき御報告いたします。

本特別委員会は、低成長下、社会情勢の変化の中において、市議会も議会の立場から議員定数につき検討する必要上設置されたものであります。本特別委員会は設置された趣旨を体し、先進地の視察を行い、これを参考とし、当市の現況を踏まえ、五回にわたる委員会を開催し、慎重に調査検討を行いました。

当市は、昭和四十一年六名減の議員定数条例の制定を見、今日

に至っておりますが、議会といたしましては厳しい時代の要請に
こたえ、市勢の発展と市民生活向上のため社会経済情勢の変化に
対応した行財政の確立をすべきであり、また現在、市議会は四名
欠の二十六名をもって議会を構成し、十分住民の負託にこたえて
おる現実を直視したとき、減員すべきであるとの意見の一致によ
り、減員すべきものと決定いたしました。九月二十八日前回の委
員会に引き続き減員数について検討いたしました結果、現行三十
名を二十八名とすることについて賛否を問いましたところ、賛成
多数をもって二十八名とすることに決しました。

以上、本委員会における調査検討の経過及び結果につき御報告
をいたしました。

なにとぞ、満場の御賛同を賜りますようお願いいたします、
委員長報告といたします。

○議長（林 豊君） 以上で、委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について質疑はございませんか。——御
質疑なしと認めます。

よって、質疑を終結いたします。

討 論

○議長（林 豊君） これより討論に入ります。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 現在の調査特別委員会の委員長報告に反対
をいたします。

調査委員会の委員長報告によれば、現在二十六名で住民の負託
にこたえているということを断定的に言っているわけでありす

が、私はそういう事実はない。むしろ現在、二十六名という中で
住民の負託にこたえる議会の活動は大変重要な問題点を抱えてい
るという、こういう認識を持つわけで、減員すべきであるとの論
拠に大変欠けるというふうに思います。したがって、この委
員長の報告には賛成できません。

○議長（林 豊君） 他に討論はございませんか。——討論なしと
認めます。

よって、討論を終結いたします。

採 決

○議長（林 豊君） お諮りをいたします。

ただいまの委員長報告を了承することに御異議ありませんか。

（「異議なし」、「異議あり」と呼ぶ者あり）

お諮りをいたします。

ただいまの委員長報告を了承することに賛成の諸君の起立を求
めます。

（賛成者起立）

○議長（林 豊君） 起立多数であります。

よって、委員長の報告を了承することに決しました。

議 案 の 上 程

○議長（林 豊君） 日程第七、発議案第七号館山市議会議員定数
条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。
議案の朗読を願います。

（書記朗読）

○議長（林 豊君） 朗読は終わりました。

議案の内容説明

○議長（林 豊君） 議案の説明を求めます。

二三番議員菊井敏博君御登壇願います。

（二三番議員菊井敏博君登壇）

○二三番（菊井敏博君） わが国の経済は高度成長より低成長への転換の中で、住民要望もこれに呼応して、時代の進展に伴い行政の見直しが要望され、地方行政も減量化、効率化が提唱されております。

本市といたしましても、この時代の要請にこたえ市勢の発展、市民生活向上のため、厳しい時代の中において財源の効率的な運用を図り、館山駅周辺市街地整備、上下水道の整備促進等実現しなければならぬ諸問題の推進に努力しなければならぬものと痛感しております。

市議会も、昭和四十一年六名減の議員定数条例を制定し、今日に至っておりますが、時代の要請を考慮したとき、また現在四名欠の二十六名をもって議会を構成しているところでありますが、十分住民の負託にこたえているものと信じられますが、この際、三十名を二十八名に減員し、時代の要請にこたえ議会活動の効率化を推進するため、ここに本案を提出した次第であります。

なにとぞ、満場の御賛同を賜りますようお願いいたします。

提案理由の説明といたします。

○議長（林 豊君） 説明は終わりました。

○議長（林 豊君） 御質疑を願います。

○一番（神田守隆君） いま、提案の説明を伺ったわけですけれども、どうも二十八名にするという論拠がはっきりしないというところで御質問するわけであります。

時代の要請ということで、低成長下のもとでの時代の要請だとしたがって、これが地方政治の減量化だと、こういうふうなお話であります。現在、時代の要請というのはむしろ地方の時代ということが非常に言われているわけでありまして、地方政治が本当に住民本位の政治として活用されていくことこそ、いま大事なわけでありまして。その上で地方議会が果たす役割というのはきわめて重要なところにあるかと思えます。

したがって、減量ということで議員定数を減らすということ、そのことが住民の意思がより反映する議会という立場からした場合には、大変地方の時代の趣旨に逆行するものだ。臨調が盛んに地方の減量、議会の減量ということを言っていますが、こうした考え方というのは時代の要請、地方の時代という考え方からはむしろ後退するものと信ずるものであります。したがって、この言っているところの時代の要請とは具体的に何を言うのか、いまいち具体的に明示を願いたいと思うわけであります。

次に、現在、館山の議員定数が減数条例のもとで三十六名を六名減員して三十名という定数削減を現実に行っているわけですが、こうした議員定数の削減というのは地方自治体の中でもかなり大きな議員定数の削減をしている自治体に属するということふうに考えます。こうした他の自治体との状況を勘案した場合に、館山の位置というのをどのように理解しておるのか、お聞かせを

願いたいと思っております。

さらに、館山市議会の定数削減今度また提案されておるわけですが、現在二十六人で十分に住民の負託にこたえているというのには、そういう断定をしているわけですが、その論拠についてどのように、どういうことなのか御説明を願いたいと思っております。

私は、現在の館山市議会は十分に住民の負託にこたえていないと、議会は議員定数を現在減員条例のもとに減員しているわけですが、さらに四人が欠員と、こうした中で議会が本当に住民に開かれた議会とするということで、去る六月に議長あてに議会広報を発行し、住民に開かれた議会にするようにというような申し入れをしたところであります。そうした活動も減数条例のもとではますます困難になるのではなからうか、こうしたことは住民の議会に対する負託、これに十分こたえることにはならないのではなからうかという危惧を感じるわけにあります。

以上、御質問申し上げます。

○二三番（菊井敏博君） お答えいたします。

時代の要請ということは、賢明な神田さんならおわかりと思うんですが、共産党の立場としての発言じゃないかと思うんですけども、現状を把握した場合に、時代がどのような要求をしているか、館山市民がどのようなことを考えているかということは、私はあなた方が一番知っているというふうに思っております。

それから、他市との比較でございますが、他市はもう少し慎重な形の中で減量問題に取り組んでいるということがたくさんございます。

二十六名で現在私どもが市民の負託にこたえているというふうに自負を持ってやっておりますので、負託にこたえてないという考え方が、私とは考え方が違うので……。

○一番（神田守隆君） いまの御答弁で、全部納得できないところなんですけれども。

さらに、もう一つ。あえて二十八という数字の論拠、これを具体的に明示し願いたい。なぜ二人減ということにされたのか。そこいらの考え方が示されていないと思いますので、お示しを願いたいと思います。

○二三番（菊井敏博君） 私共は現在の形の中で、二十六名で十分負託にこたえられたという考えの中で減員すべきだということが特別委員会が決まったわけですが、先ほど申し上げましたとおり、館山駅周辺市街地整備、上下水道の整備促進等、さらに住民の負託にこたえなければならぬ大きな問題がたくさんございます。

そこで、さらによりよい活動をする形の中で、また皆さん方のように、共産党さんが三十名という、またほかの方たちにもそういうような現状維持のいろんな声を聞きますので、少なくとも市民の要望にこたえるためには何らかの処置をしなければならぬということでのこのようにいたしました。

○議長（林 豊君） 以上で一番議員君の質疑を終わります。

他に御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

○議長（林 豊君） お諮りをいたします。

本案については委員会の付託を省略したいと思ひます。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(林 豊君) 御異議なしと認めます。よつて委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

○議長(林 豊君) これより討論に入ります。

(二〇番議員石井武敏君登壇)

○二〇番(石井武敏君) 私は、ただいまの発議案第七号に関しまして、その内容であります二十八名に議員定数を減ずる内容に関しまして、反対の討論を行います。

申すまでもなく、本市の議員定数三十名につきましては、昭和四十一年に条例改正によりまして決定をされたものでありまして、昭和三十四年四月を振り返りますと、当時の市議会議員選挙の際定数は三十六名でありました。また昭和三十八年の四月の選挙にありまして同じく定数は三十六名であつたのであります。

当時の予算規模を見ますと、昭和三十四年は、当初予算額は三億五千九十四万六千四百四十円でした。また特別会計は公益質屋や国民健康保険、それから簡易水道の各種の特別会計を合わせまして、それらが五千八百八十五万六千四百四十円。さらに昭和三十八年の一般会計は五億六千六百六十九万五千五百四十円、特別会計は、公益質屋、また休養村、ユースホステル、簡易水道が二つ、合計一億三千九百七万二千九百二十円、これを三十六名の議員が審議したわけでありまして、いまの予算額に比べますと、いかに少ない金額であつた

か、よくわかりただけだと思います。

定数三十六名を三十名に減らした直後の昭和四十二年当時を振り返りますと、当初予算額でも十億二千三百三十四万九千円でした。今日の予算額のおおよそ一割に過ぎない、そういう少額のものでございました。このときの特別会計が三億五千四百七十一万七千円、国保とと場、そして休養村、ユースホステル、簡易水道、南部簡易水道等の六特別会計でした。

四十六年当初が、十九億九千七百六十八万九千円、昭和五十年、四十五億三千六百六十八万四千円、五十四年に四十億二千三百八十七万六千円、こういうようにおそく昭和五十八年度には百億台に達する予算をこれから審議することになるわけでございます。

このように、行政需要は次第に増大をしまして、市民のニーズがきわめて広範にわたり、多岐にわたつております。そうした周囲の状況は予算規模の拡大の数字を見ましても十分におわかりいただけると思ひます。

このような事情を踏まえるときに、私は、定数はむしろ市民の要望にこたえるためには若干でも増員すべきではないかというようにも考えるんですが、しかしながら館山市のみならず国の行財政を勘案しますときに、いまの議員数を増大するということは財政的にも好ましくない、現在の財政事情に基づいて考えれば私は議員定数は現状の三十名を維持すべきものと考えを持ちます。

そうした理由によりまして、私は第七号の発議案に反対をするものであります。どうか満場の皆さまの御同意をお求めしまして反対の討論といたします。

以上でございます。

○議長（林 豊君） 他に討論ございませんか。

（九番議員松下正己君登壇）

○九番（松下正己君） 発議案第七号について、賛成の立場より討論を行います。

本市は、健全財政の基盤確立のため職員数の削減、課の統廃合、業務の民間委託等、減量経営に前向きに取り組んでおるところであります。

このような中で、五十七年七月三十日、第三次答申において地方議会の合理化につき、「地方議会は、国会が国における行政改革の実行に重大な責任を有するのと同じく、地方行政の減量化、効率化に重大な責任を有するものであることにかんがみ、経費の節減、運営の効率化等を期する観点から自発的に次のような方策が講ぜられることを期待する」と前置きをし、その一に、「地方議会の議員定数については、現在かなりの地方公共団体がその自主的判断によって減数条例を制定し、議員定数を減少させており、この努力は正當に評価されるべきであるが、なお一層の簡素化を図るべきである」と述べられております。

ちなみに、人口五万から十万人の市は百六十七市ございますが、うち八名減員九市、三名から七名減員が百十八市、八人から十六人減員が五十市といわれております。

本議会も、昭和四十一年六名減の議員定数条例を制定し、今日に至っておりますが、昨今の社会情勢を考えますに、長期化する経済不況の中にあつて、当然体質改善をすべきであり、この時期にその先見性を発揮し、ここに議員定数を減員し、市財政の長期

安定を期し、市民の負担にこたえたものであると考えます。

まさに、地方議会の合理化を十分に踏まえたものと信じ、賛成をし、討論を終わります。

○議長（林 豊君） 他に討論はございませんか。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 発議案第七号館山市議会議員定数条例の一部を改正する条例の制定について反対の討論をいたします。

議員数の減員について反対するわけですが、議員定数は議会制民主主義の基礎に係る問題であろうかと考えます。

定数削減には、財政上の理由以外には何らの論拠がないと考えます。

議会が住民の負担にこたえていくには、いたずらに議員の定数を削減することではないと考えます。むしろ、現行の議員数を維持する中で、市民の期待にこたえる十分なる議会活動のあり方をこそ考えるべきであり、また、財政上も効率的な支出のあり方を考えるべきだと考えます。

こうした立場から、現行議員定数を維持すること、議会広報を定例議会ごとに行行し市民に開かれた議会にすること、議員の視察旅行については抜本的な見直しを図り経費の削減を図ること、以上の三点を主張し、定数削減反対の討論といたします。

○議長（林 豊君） 他に討論ございませんか。

（一二番議員栗原一雄君登壇）

○一二番（栗原一雄君） 発議案第七号について賛成の討論を行います。

過日の第二臨調第三部会の報告につきましては、私が申し上げ

るまでもなく、御承知のとおり地方行政の減量化、効率化について強く求めているところでございます。

特に、地方議会の合理化についても触れており、現在かなりの地方公共団体がその自主的判斷によつて減員条例を制定し、議員定数を減員しております。

したがつて、地方自治の本旨と議会の機能に留意しつつその見直しを検討しようとするものであり、本市においても行政の減量化、効率化に努めているところでありますが、議会としても行政の全般にわたる抜本的な見直しを行い、自主的、自律的な行政改革を議会として市民に先がけ一層推進すべきものと考えます。

したがつて、議会は住民によつて選ばれた議員で構成される議事機関として住民の意思を行政に反映する機能を有しており、したがつて地方自治に果たすべき役割はきわめて大きな責任があるものと存じます。

議員定数については、都市人口が五万から十五万までを三十六名を法定数としておりますが、本市においては昭和四十一年に議員定数条例によつて定数を六名減員し三十名となっているところでございます。しかし、現況において物故された同僚議員を含め四名の欠員となつており、二十六名をもつて議会を構成し、十分住民の負託にこたえていると信じているところでございます。

そのような現実を直視して、住民の信頼を確保し、分権下における行政機能の担い手として、議会として率先して行政の減量化、効率化、適正化を図ることは、時代の変化に対応し、さらにふさわしいものにしていく上できわめて重要な課題であると存じます。

なお、公職選挙法における補欠選挙は、自治法第百十三条第一

項第五号に規定されますように、市町村議会においては定数の六分の一を超えるに至ったときとされており、したがつて、本案は議員定数条例をさらに二名を加え減員しようとするものであり、欠員が生じた場合、補欠選挙に必要な最下限については全く未知のものでありますので、本案について以上の理由をもって賛成いたします。

○議長（林 豊君） 他に討論ございませんか。

（二二番議員藤田益治君登壇）

○二二番（藤田益治君） 発議案第七号に賛成の立場から討論をいたします。

全国の市議会の七割が議員法定数を減員している現在であります。なお、またこの減員している市町村は、十万未満の市町村が非常に多いということでございます。

その中であつて、五十七年五月二十五日の第七百五十三号の全国市議会旬報に掲載された、いわゆる人口五万から十万未満の市において減員状況は、二百十市の中で百六十八市というふうな状態になっているところであります。

ちなみに、その減員を人員別に見てみますと、二名減員が二市、三名の減員が三市、四名の減員が十一市、五名の減員が二市、六名の減員が九十三市、八名の減員が十市、九名の減員が三市、十名の減員が二十市、十一名の減員が一市、十二名の減員が十二市、十三名の減員が一市、十四名の減員が六市、十五名の減員が一市、十六名の減員が三市というふうな現況になっておるわけでございます。

そのもろもろの現象をとらえて、本市におきましても特別委員

会を設置し、昭和五十七年七月三十日に第一回、九月二日、三日、四日と二泊三日にわたり長野県の須坂、あるいは静岡県掛川市を行政視察し、九月九日第二回目の委員会、九月十三日、そして九月二十五日、九月二十八日と委員長招集のもとに慎重に審議した結果が今回の発議案になったのであると信じます。

その上に、現行の地方自治制度にあたって、住民の権利の拡充そして地方公共団体の自主性、自律性の強化、地方公共団体の行政の効率化、そして公正の確保、このような原則にかんがみ、市政の発展を願う一人であります。したがって、この原案につきましては本案に賛成するものでございます。

以上をもって賛成討論といたします。

○議長（林 豊君） 他に討論はございませんか。——討論なしと認めます。よって討論を終わります。

採 決

○議長（林 豊君） これより採決いたします。
採決は起立により行います。

本案を原案どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（林 豊君） 起立多数であります。よって本案は原案どおり可決されました。

日程の追加について

○議長（林 豊君） お諮りいたします。

ただいま安澤徳順君ほか六人から発議案第八号館山市議会議員

定数条例の一部を改正する条例の制定についてが提出されました。この際、これを日程に追加し、議題といたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」、「異議あり」と呼ぶ者あり）

（「議長、二三番」と呼ぶ者あり）

○二三番（菊井敏博君） ただいま議会の意思決定をなされたこの問題を、また議員定数問題について出すということは、一事不再議の原則に反するんじゃないかと思います。その点ひとつお諮り願いたいと思います。動議を提出いたします。

○議長（林 豊君） 暫時休憩をいたします。

午後一時四十四分 休 憩

午後二時五十一分 再 開

○議長（林 豊君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

ただいま動議との発言がありましたが、動議は賛成者が必要でありますので、賛成者はありませんので、動議は成立いたしません。

再度お諮りいたします。

ただいま安澤徳順君ほか六人から発議案第八号館山市議会議員定数条例の一部を改正する条例の制定についてが提出されました。この際、これを日程に追加し、議題といたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」、「異議あり」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議がありますので、起立により採決いたします。

発議案第八号を日程に追加し、議題とすることに賛成の諸君の

起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長(林 豊君) 起立少数であります。よって本案を日程に追加し、議題とすることは否決されました。

暫時休憩をいたします。

午後二時五十二分 休 憩

(休憩後、会議は再開されなかった)

地方自治法第二百二十三条第二項の規定により署名する。

館山市議会議長 林 豊

館山市議会議員 流 山 源 次 郎

館山市議会議員 石 井 輝 久

○本日の会議に付した事件

一、議案第三十九号ないし議案第四十八号

一、請願第四号

一、陳情第一号

一、日程の追加・発議案第五号

一、日程の追加・発議案第六号

一、認定第一号ないし認定第七号

一、議員定数調査特別委員会委員長報告

一、発議案第七号

一、日程の追加について